

「I.R.F」(五所川原) 路面融雪など開発に力

「省エネ、便利、安さ」追求

雪国である本県の暮らしに欠かせないロードヒーティング。五所川原市のヒーター開発・製造業「I.R.F.(アイアールエフ)」は4件の特許技術を生かしたロードヒーティングなどヒーター関係の製品を独自で開発、製造・施工販売している。長谷川直宏代表(56)は「省エネと便利が一番の原動力」と語り、これまでに新しい新たな技術を用いた製品開発に余念がない。

電気式のロードヒーティングに使われているヒーターの多くはニクロム線に電気を通して発熱させる仕組みだが、同社はニクロム線の代わりに薄く伸ばしたステンレスを使用。0.03mmの薄さでコンクリートの重さにも耐え、ニクロム線と同じ電力でより広い面積を温められるため、従来よりも熱効率が3割向上した。

発見必見

あomorい 経済 106

大手電機メーカーでコンピュター製品の販売などをしていた長谷川代表は、仕事で県内を回る中で、雪かきに苦労するお年寄りが目に留まった。「もっと便利なものができるのではないか」との思いで一念発起し、28歳ごろに独立。ものづくりの道に進んだ。ヒーターに着目し、研究機関や工場、海外企業などを訪ねながら独学で研究を重ね、15年の試行錯誤を経てたどり着いたのがこのステンレスヒーターだった。



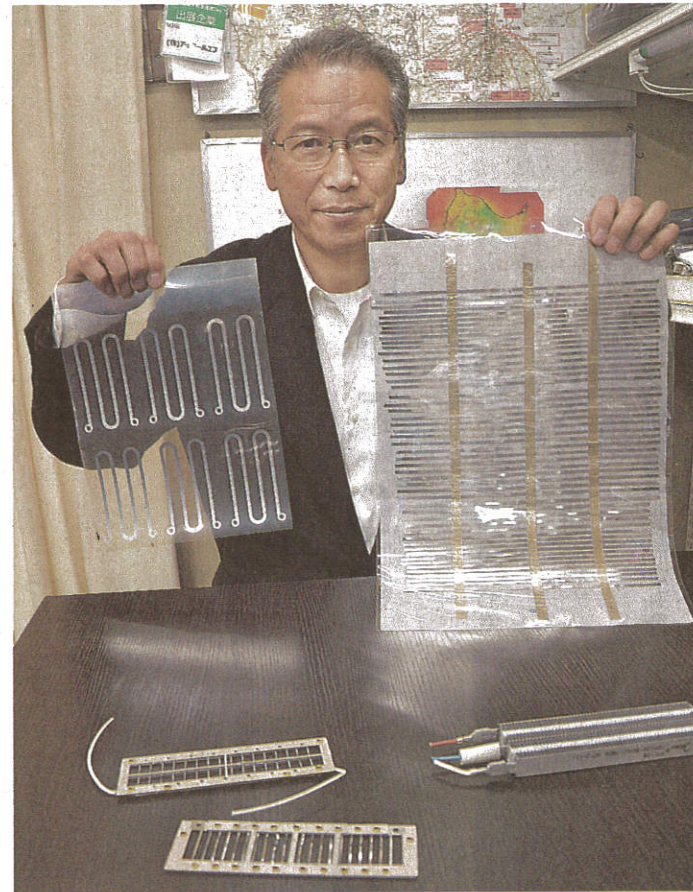
アイアールエフが開発した、ステンレスヒーターを使ったロードヒーティング。奥のケーブルを束ねる複数の四角い箱がプールボックス

「省エネと便利」の工夫

はスイッチにも表れている。同社のロードヒーティングには降雪、気温、地温を測る3種類のセンサーを搭載。気象庁のデータを基に、雪が降りそうな条件を満たすと、雪が積もる前の降り始めのタイミングで自動スイッチが入る仕組みと

なっている。

また、東北電力が設定している融雪用電力プランの使用時間帯に合わせて稼働する設定も導入した。長谷川代表は、こうした機能により、同社のロードヒーティングは従来の半分のランニングコストで稼働が可能になったと説明。一般的な住宅の駐車場なら、1カ月当たり約1万円の電気代で済むという。



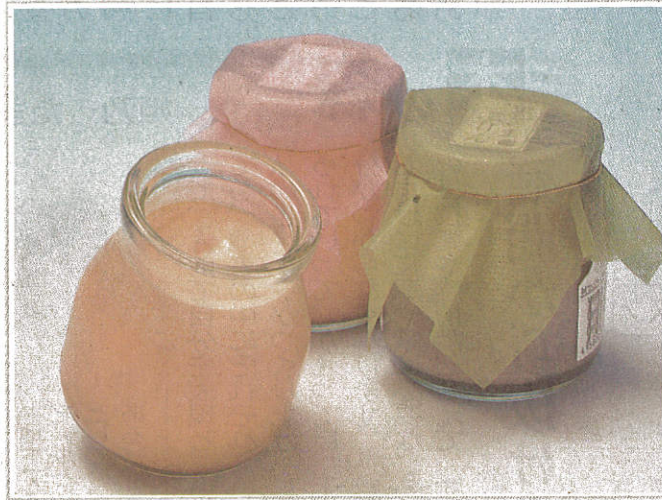
薄さ0.03mmを実現したステンレス薄膜を持つ長谷川代表

長谷川代表が何度も強調するのが「簡単に効率よく、安く」ということ。メンテナンス面でも効率性を重視し新たな技術を開発した。通常、ロードヒーティングはヒーター部分が故障した場合にコンクリートを掘り返して内部を交換する工事が必要となる。しかし、同社はヒーターのケーブルを地上に集約した「プールボックス」(特許出願中)を開発。コンクリートを崩す

している。

現在はLED型信号機用のヒーターの開発を進めるほか、雪庇・つららを防止する「軒先ヒーター」の販売や小型風力発電の建設も請け負っている。長谷川代表は「これから人数を増やし会社を拡大させ、自社で開発した技術を普及させ地域貢献をしていきたい」と語った。(増田菜穂子)

あomorい コレクション



■青森シャモロックぷりん

■グローバルフィールド(五戸町)
青森シャモロックを扱う同社が2008年に販売を開始したスイーツで、プレーンとごま味の2種類をラインナップ。直営養鶏場で作られた有精卵と新郷村産「間木ノ平の薫りたつ牛乳」を原料に、卵の持ち味を生かすため甘さ控えめに仕上げた。

三浦孝之社長(49)は「なめらかな口当たりとコク深い味わいが特長」と胸を張る。

【チェック】濃厚な卵と牛乳の風味が口いっぱい広がり、思わず笑顔が浮かぶ一品。(斎藤義隆)

▷価格 110g入り1個300円(税抜き)。ネット通販ではセット販売のみ。

▷取扱店 五戸町西ノ沢の同社直売所、ネットショップ「青森シャモロック販売店」など。

問い合わせはグローバルフィールド(電話0178@1511)

口当たりなめらか、コク深く